

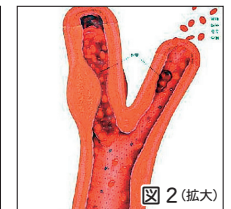
## 医師に聞く 専門性の高い医療

# 脳梗塞の原因の一つ 「内けい動脈きょうさく症」



脳外科部長 竹内 昌孝 先生(月~土担当)のお話

流れが滞っている状態をいいます。高血圧症、糖尿病、高脂血症など生活習慣病によって起こる動脈硬化が主な原因です。厚くなった動脈の壁には、コレステロールなどがたまり、プラーク(粥腫じゆくしゆ)を形成しています(図2)。



分岐部の血管が狭まり、血液の流れが滞るのが「内けい動脈きょうさく症」

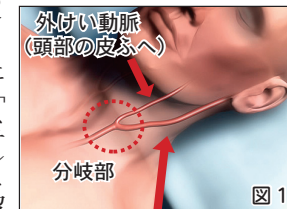


図1

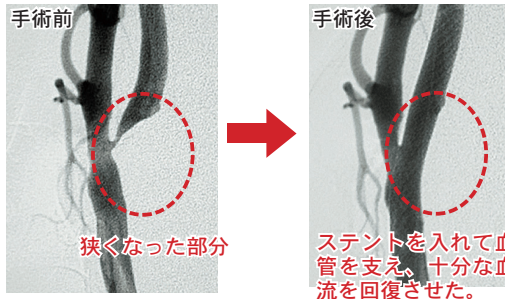
脳梗塞の原因の一つに、「内けい動脈きょうさく症」があります。動脈きょうさく症とは、血管の壁が内側に厚くなって、血液の通り道が狭くなる病気です。首の左右には、けい動脈が1本ずつあります。このけい動脈はあごの下で2本に分かれ、1本は内けい動脈として脳へ、1本は外けい動脈として頭部の皮膚に血液を供給します(図1)。内けい動脈きょうさく症とは、この2つに分かれる動脈の「分岐部」の血管の中が狭くなり(狭窄きようさく)、血液の

内けい動脈きょうさく症が進むと、脳に送られる血液が足りなくなり、また、プラークが破裂すると、血液の小さな固まり(血栓)が流れ、脳の細い血管につまって血流を止めてしまいます。脳への血流が不足すると、部位によっては、手足の麻痺や言語障害などの神経症状が起こり、場合によっては命の危険にさらされることがあります。狭窄の程度が高い場合には、すみやかに治療する必要があります。

治療法には二通りあります。カテーテル(細い管)を用いた「ステント留置術」が行われていて、血管を露出してメスをいれ、プラークを摘出する方法です。西湘病院では、局部麻酔で可能な「ステント留置術」を選択する場合があります。局部麻酔で手術が可能、「入院期間が4日間」という利点があるためです。高血圧症、糖尿病、高脂血症、また、人工透析療法を受けられている方は、簡易的検査として超音波で内けい動脈の狭窄の程度がわかります。ぜひ、かかりつけ医にご相談されるとよいでしょう。次回は、くも膜下出血の原因である脳動脈瘤治療についてご紹介

### 図3 内けい動脈きょうさく症の治療の一つ 「ステント留置術」

「ステント」とは、金属の網でできた小さな筒状の医療機器。狭くなった内けい動脈の内側に入れることで、内側から血管を支え、十分な血流を回復させることが出来る。



狭くなった部分

ステントを入れて血管を支え、十分な血流を回復させた。

#### 取材協力

医療法人 財団報徳会  
**西湘病院**  
院長 原 俊介  
小田原市扇町1-16-35  
**0465-35-5773**  
<http://www.seishou.or.jp>

\*竹内昌孝 / 1999年 東海大学医学部卒。日本脳神経外科専門医。日本脳卒中学会専門医。日本脳神経血管内治療学会専門医。